

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2019 セッション5 モデレーター 棚橋乾（多摩市立連光寺小学校 校長／全国小中学校環境教育研究会 副会長）

日本ユネスコ国内委員会資料（第137回教育小委員会 配付資料）より作成

ESD for 2030 ポジションペーパー 2020年～2030年

2030年のための持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて

- #### GAP後で重視されるべき改善点
- ・行動の変革
 - ・構造的変更
 - ・科学技術の進歩した未来



- #### 実施枠組
- ・全ESD活動はSDGs達成に貢献する。ESDはターゲット4.7の重要項目。全てのSDGs達成の鍵。
 - ・パートナーネットワーク：ネットワーク間の協力を強化
 - ・ユネスコ・日本ESD賞
 - ・加盟国：2030年まで5つ全ての活動分野に取り組む
 - 分野1（政策）：教育や国際国内政策の中にESDを統合
 - 分野2（教育訓練環境）：ホールスクールアプローチの推進。公教育・ノンフォーマル教育・インフォーマル教育の環境の協力・
 - 分野3（教員）：学習者が自発的に学ぶ機会を増やす。教員は学習のファシリテーターである。
 - 分野4（若者）：若者は持続可能性の問題に取り組む鍵
 - 分野5（コミュニティ）：行動分野の実施に密接に繋げる。

- #### ユネスコに求められる取組の提言案
- ・国家レベルのESD for 2030を支援するプログラムの立ち上げ
 - ・グローバルレベルのネットワーキング
 - ・エビデンスベースでのESD for 2030の実施
 - ・広報に対する努力
 - ・ESDコミュニティだけでなく、より広範な持続可能な開発及びSDGsコミュニティとのパートナーシップのさらなる開発。SDGsの運営に関わるUN機関、多国間金融機関、民間セクター等との協力や資金調達の仕組み作り
 - ・5活動分野における活動の規模拡大
 - ・プログラムやプロジェクトの成果や効果の拡大
 - ・定期的なテーマ別調査